

# 埋め込まれた自由主義の危機

## 第4回

# 質問

- 社会防衛機能とはスピーナムランドシステムなどで取られた戸外救済など福祉政策や国民に対するセーフティーネットのことであっていますか？
- 新救貧法導入による社会防衛反応とは具体的にどのようなことを示しますか。
- 埋め込まれた自由主義における自由貿易体制と社会防衛機能の共存という点で、社会防衛機能とはどのようなことを表しますか。

# 国際貿易体制

- 大西洋憲章(1941年9月)戦後における自由貿易体制確立をイギリスと合意
- GATTとIMFへ
- GATTは、自由で無差別な多角的貿易秩序
- 多角的関税交渉(ラウンド)の枠組み
- 相互に最恵国待遇を無差別に交換
- 関税率低下がメンバー国に適用される

# 国際通貨体制

- IMF協定(ブレトンウッズ体制)
- 国際通貨金融体制
  - 大恐慌と通貨切り下げ競争(近隣窮乏化政策)・為替レート不安定・貿易縮小
- 国際交易 ← 通貨の交換性確保+為替レート安定
  - adjustable peg制
  - 金＝ドル交換・平価(ドルと加盟国通貨の交換比率は1%以内の変動に収める)
  - IMF融資による交換性維持(国際収支悪化国)

# アメリカの役割

- 戦後における貿易体制への障害
- ヨーロッパの経済的疲弊
- 米ソ冷戦
- マーシャル援助(1948年から4年間)
- 日本の復興支援
- 1958年 ヨーロッパ主要通貨の交換性回復
- 1964年 円がドルとの交換性回復
- GATTケネディーラウンド(1963-67)自由貿易体制の拡大

# パックスアメリカナの揺らぎ

- IMF(ブレトンウッズ)体制の崩壊
  - ドルショック: アメリカによる金ドル交換の停止(1971年)
- アメリカの経済力の衰退
  - ヴェトナム戦争、偉大な社会プログラム
  - 国際収支悪化、インフレ昂進
  - ヨーロッパ・日本の復活
  - 通貨用金保有の減少
- 変動相場制へ(1973年)

# 自由貿易体制の揺らぎ

- 貿易摩擦
- 「GATT原則に基づくアメリカの要求」対「日本の抵抗」という構図
- 日米繊維交渉という変化
- アメリカの国内産業保護要求

# ボックス・アメリカーナの再編

- アメリカの双子の赤字：財政赤字と経常収支赤字
- 貿易摩擦 GATT無差別原則から相互主義へ
- アメリカの衰退？
- 1981年 レーガン大統領
- ネオリベラリズム 小さな政府と規制緩和
- レーガン、サッチャー、中曽根、そしてミッテラン



# アメリカの復活とその後

- アメリカの90年代の復活と日本の「失われた10年」
- GATTウルグアイ・ラウンド
  - 農業部門・サービス貿易のルール制定、知的財産保護
  - さらなるグローバル化とWTO創設
- アジアNIEs, ASEAN, 中国の成長
- 共産主義の退場・ベルリンの壁崩壊
- 資本主義と民主主義の勝利:歴史の終焉  
(F.Fukuyama)

# その後の動き

- グローバル化への反動再び
  - 格差、環境問題、人権等を問題にする反グローバル化の動き
  - シアトルにおけるWTO閣僚会議の混乱（1999年11-12月）
  - アジア通貨危機（1997年）、ロシア金融危機（1998年）、世界金融危機（2007年-2010年）
- 中国の挑戦、アメリカの変容

# ブレトンウッズ体制の崩壊と経済理論

- マンデル・フレミング・モデル
- 国際金融のトリレンマ: 金融政策の自律性・固定相場制・資本移動の自由

	金融政策自律	固定相場制	資本移動自由
埋め込まれた自由主義	YES	YES	NO
	YES	NO	YES

- ケインズ

- 国内経済政策の自律性と固定相場制を維持するためには、資本移動をコントロールする必要がある。

- ネオリベラリズム

- 資本移動の自由
- 自由市場メカニズム
- 市場の埋め込みの解除？

# ベビーシッター組合

- そのことから夏に合わせてチケットを1枚配布し、需要が落ち着いたことが観察されたら回収すればいいと思います。
- アンケートによる需要調査に賛成です。
- 皆が使わずにためているのでクーポンの発行枚数を増やすこと、増やしすぎても皆が使用しすぎて別の問題が発生すると思うので枚数に上限を設けることに賛成します。
- 組合参加者の人数には限りがあるので(＝労働供給一定)クーポンを増やしても限度が存在する
- 私も期限つきクーポンを発行することが有効だと思います。期限があることでベビーシッター組合の機能が滞ることなく動き続けると 생각합니다。

# 課題

- 予測
- 対策をとる時間
- 効果が出るまでの時間

# ケインズ主義の威信低下

- ニクソン大統領「今や誰もがケインズ主義者である」(*The New York Times*, January 4, 1971)
- フィリップス曲線
- インフレと失業
- 第1次石油危機後のスタグフレーション

